

令和元年度学校評価表【年度末】

1 学校教育目標						
教育基本法および学校教育法 の精神にのっとり、中学校教育の基本にたつて、様々な学習活動を通して知識や技能を修得させ、個性豊かな良識ある社会人を育成する。						
2 中・長期的目標						
(1) 基本的な生活習慣を身につけ、社会や学校のルールやマナーを守って生活する意識の向上をはかる。 (2) 授業を第一とし、落ち着いて学習に取り組める環境を大切にする。生徒と教員が共に授業改善に取り組み、基礎学力の向上を図る。 (3) キャリア教育の充実をめざし、早期から進路意識を育成し、自己実現に向け社会につながる力を高める。 (4) 「いじめ・体罰」は「しない・させない・許さない」態度でのぞみ、全員でその防止に努める。 (5) 保護者・地域と学校との関わりの大切さを理解し、地域に愛され、信頼される学校づくりをめざす。						
(A: おおむね達成されている B: 部分的に達成されている C: 達成されていない D: 判断できない)						
3 中・長期的目標に基づく 今年度の重点目標・具体的方策			年度末評価			
具体的目標と方策	評価の観点	A	B	C	D	成果と今後の課題
(1) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《生徒会係》 生徒会の各委員会が、それぞれにより良い協力関係の構築・礼儀・モラル・地域連携などに係る具体的な目標を掲げ、主体的な活動に取り組む。	・具体的な目標を各委員会が設定できたか。 ・それに基づき、計画通り活動がなされたか。	4%	71%	11%	13%	各委員会で最低限の活動はできたと思われるが、生徒から発信される情報が少なく、主体性に欠けるのではという意見もあった。今後は日常の活動をどう自主的に活性化できるようにしていくかが課題である。
②《生徒会・生徒指導係・防災清美係》 挨拶・清掃運動を、生徒会主体で継続的に行う。また職員個々が積極的に生徒への声掛けをし、挨拶・清掃活動を励行する。	・生徒会で運動の企画、継続の実施などができたか。 ・前年度以上に職員による声掛けがすすんでいるか。 ・清掃に取り組む意識が向上したか。	11%	60%	24%	4%	挨拶運動に関しては例年以上に活発に取り組めた。清掃活動については清美委員の日々の清掃時の活動をどのように行うのか明確化する必要がある。 日常の学校生活では、職員の生徒への声掛け・挨拶は少ないようだったが、校風確立週間の東門立番では、生徒への声掛け・挨拶を行うことができた。職員も協力して清掃に取り組む必要はあると思うが、生徒が職員任せにならないように心がけていきたい。
③《生徒指導係・学年》 遅刻・早退・外出や服装や髪型・盗難・交通マナー・携帯電話やスマートフォンのマナーなどに係る規範意識の向上に努める。	・規範意識が深められたか。	2%	29%	64%	4%	学年ごと定期的に頭髪指導を行うことができた。服装指導について進路指導等と関連づけて意識させることができた学年もあるが、日常的には指導の浸透が難しい生徒がいるのが現実である。声かけによって規範意識が高まる生徒もいるが、HRや授業時から規範意識が向上するよう、全校的取り組みをさらに工夫していく必要がある。また、日課も検討していく必要がある。 交通マナーについても近隣住民の方からの苦情が数回あり、普段のHRで声かけをしていくなど改善が必要。
(2) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《各教科》 授業公開などの実施を通じて、お互いによりわかる授業を目指す。	・各教科で授業公開等の実施や、授業アンケートの結果を生かし授業改善等に役立てることができたか。	9%	64%	20%	7%	授業についてはお互い見に行く時間がなかなか取れない実情があったが、授業アンケートをふまえて各教科で授業改善に努めることができた。しかし授業によっては閉鎖的になってしまっている部分もあり、公開期間を活用した「授業の見える化」に取り組む必要性は増していると考えられる。生徒にとっても複数の目が常にあった方がよいことから、授業は常に公開とし、重点期間を設けるといった工夫が必要。電子黒板を活用し、互いの授業を見学し、検討する機会を増やしていきたい。
②《学年・教科》 週末課題等により、家庭学習・自学自習の習慣を身に付けさせる。	・学年、教科で週末課題等が継続的に実施できたか。 ・昨年度に比べ、家庭学習時間が増えたか。学校生活アンケートで検証する。	13%	49%	27%	11%	教科ごとに適宜課題を出したり、基礎学力向上診断テストに向けての動機付けとして問題集を授業時間内に解説したりすることで部分的に達成された。HRや学年でしつけを作っても家庭学習の習慣がなかなかつかない生徒も多い。教科との連携が難しかった学年もあり、取り組みの差も生徒によって大きいため、週末課題の意義や効果的な方法については教科で検討していく必要があると思われる。
③《各職員》 正味50分の授業を実施するとともに、生徒の授業への遅刻をなくす。	・50分授業確保にむけての態勢づくりが出来たか。	18%	62%	18%	2%	生徒の集中力を持続させる工夫はしているが、様々な生徒がいて、対応が難しい場面があった。職員側も、チャイムが鳴ったときには教室にいて、着席指導をするなど工夫をしていく必要がある。
④《学年・図書係・ビジョン委》 読書旬間の設定により、読書意識の涵養をはかる。	・アンケート結果をもとに読書に向かう姿勢づくりができたか。	27%	53%	9%	11%	着席して読書の姿勢を作るのに苦慮するクラスもあったが、精神的に取り組む、全体的には少しずつ読書に向かう姿勢を作ることができてきている。「本を読むようになった」「授業に集中できるようになった」等効果を実感している生徒も多いが、本を自ら用意できない生徒が増えてきたということもあり、学年、クラスによって取り組みに差がある。図書委員の関わりを深めて、事前連絡を徹底していきたい。
(3) に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《学年・進路指導係》 進路指導の方針や指導計画を、より具体的なものとし、全職員の共通理解を得る。	・より具体的な指導方針・計画が提示され、職員の共通認識が得られたか。 ・計画にもとづき、継続的な指導がHRで実践できたか。	31%	58%	2%	9%	全体的には各学年とも年度当初の計画通り実施できた。学年の方針の理解も進み、段階を追って昨年度より具体的な指導と振り返りができ、定着している。併せて進路行事に向け意識付けや態度など指導している。今後も単発ではなく1年生から3年生まで関連性を持たせる指導をしていきたい。
②《進路指導係》 進路に向けて生徒個々の意識向上への働きかけをする。(キャリア教育の推進)	・仕事への関心を持たせることができたか。 ・看護体験等の各種体験事業・ジュニアインターンシップ・オープンキャンパスへの参加が拡大したか。	24%	60%	4%	11%	進路サポーターやハローワーク、OB・OGなどの力を借り将来に向けた仕事への興味関心を持たせることができた。また、各種検査などで自分の仕事への適性について考える機会をもたせ幅広く進路選択を考えさせた。2年生を中心にインターンシップや看護体験、オープンキャンパス・体験授業への参加を義務付けレポート提出などさせキャリア教育として拡充させることができた。次年度以降も継続させたい。
③《進路指導係》 組織的な進学・就職・公務員等それぞれの適切な指導を実施する。	・進学希望者、就職希望者、公務員希望者それぞれに対して指導が効果的に行えたか。	33%	51%	2%	13%	かなり充実した取り組みをすることができた。就職希望者はハローワークや外部講師によるガイダンス・適性検査・面接講習会・履歴書指導など時宜に応じて開催し徹底を図った。全職員による面接指導が効果的であった。公務員希望者は専門学校講師によるセミナーを前年11月より2回のペースで開催し、効果をあげることができた。継続しての参加が合格に直結したため、いかに継続して参加させるかを考えていきたい。進学希望者は各学年実施の進学補習と個別指導を行った。小論文指導も含め組織的な進学体制づくりが必要。松涛塾での模擬試験も意識の高い生徒は積極的に受験するが受けて済まず生徒は多い。今後の取り組みが必要。
④《進路指導係》 生徒への継続的な進路相談の機会を提供する。	・進路相談(面談)の機会を定期的に行うことができたか。	44%	44%	2%	9%	1年生不定期、2年生は12月に全員、3年生は5月に全員進路係面談を実施している。それぞれの疑問や課題を解決すべく対応した。1、2年生では学校生活を再見直し充実させる効果、3年生は直面する進路選択についてその方法と助言ができた。進学補習に対する意識の低い生徒もいるため、今後は進路の重要性を意識して学校生活を送るよう指導する。

(4)に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《教務係・生徒指導係・各職員》 学校生活のきまりを明確にし、規律ある学習環境づくりを行い、すべての生徒が安心して学習できるようにする。	・学校生活や授業のきまりを生徒や保護者にわかりやすく明示し、周知することができたか。また、その徹底を図ることができたか。 ・HRや授業において、機に応じた指導ができたか。	13%	62%	22%	2%	学年で入学当初から一貫した指導をしているが、生徒が学校生活や授業のきまりを充分には守れていないと感じる。事前の確認に従って共通の指導ができるように、再度学校の決まりを確認し、一貫した指導ができるようにしたい。
②《生徒会係・学年》 生徒会、学年各種行事を通じて「絆づくり」、「仲間意識の向上」の視点で生徒の集団づくりを促す。	・生徒自身が考え、協力し合い、成し遂げる喜びを体得できる支援ができたか。 ・生徒が他者のために貢献し、自己有用感を持つよう、支援することができたか。	11%	56%	27%	7%	クラスマッチや文化祭を通じてクラスの親睦が深まり、「クラス作り」はできてきている。しかし、組織の一員であるという自覚と認識の少ない生徒や、新たな人間関係作りに積極的になれない生徒も一定数いる。一歩踏み出し「学年作り」「学校作り」という視点をどのようにして持たせるかが課題である。
③《生徒指導係・人権同和教育係・学年》 「いじめは絶対に許さない」姿勢を周知徹底させる。	・いじめ防止にかかわる学校の姿勢を生徒・保護者に対して発信、周知徹底ができたか。	18%	64%	13%	4%	委員会と連携しながら、学年でも生徒・保護者への周知徹底を行い、早期発見・早期対応に努めてきた。いじめに関しては高い認識で丁寧な指導をすることができている。いじめアンケートの結果を基に、今後はいじめを未然に防ぐ観点で、「ふざけ」や「からかい」からいじめに発展しないようなHR運営や環境づくりに努めていきたい。
④《生徒指導係・人権同和教育係・特別支援教育係》 いじめ防止に係る様々な研修会を実施し、日々の活動で人権意識の向上に努める。	・日々の教育活動・学校生活での生徒に対する指導において、常に言動・行動を見つめなおし、人権意識の向上に努めることができたか。	16%	58%	18%	9%	人権啓発映画では生徒の感想文から人権意識の高まりが見られたが、相手の気持ちを考えた言動ができない生徒もおり、様々な場面で生徒への指導の必要性を感じた。未然防止の観点からも来年度は研修会を実施し、HRだけでなく学年集会・生徒会活動・部活動指導等を通じて、人権意識を向上させていけるようにしたい。 特別支援教育では、スクールカウンセラーの配置時間が昨年より大幅に増加し、きめ細やかなカウンセリングを実施することができた。内規の整理も行い、必要な生徒に対して丁寧な対応をすることができた。
⑤《生徒指導係・学年》 人権に係る指導を継続的にを行い、暴力やいじめなどを見逃さない取り組みを強める。	・HRで日常的に機に応じた指導が行えたか。 ・暴力やいじめなどについて適切な指導がなされたか。	13%	60%	20%	7%	学年では、HRや学級通信を通じて指導を行うことができた。いじめや暴力に関しては年度初めに資料提示済みであるので、徹底を図りたい。日々起こる様々な問題行動に対し係任せせず、暴力やいじめに向かわない生徒を育てるため、全職員で取り組んでいきたい。
(5)に係り		A	B	C	D	成果と今後の課題
①《生徒指導係》 生徒指導のきまりや懲戒指針などが保護者に十分理解されているか。	・入学時やPTA総会、懇談会等の折に、全学年にわたり資料提示や説明がなされたか。	20%	56%	13%	11%	入学式やPTA総会、懇談会などで説明することができた。全職員が共通した認識を持ち、保護者が十分理解したうえで学校としての対応ができるよう、継続的に示すなど工夫をしていきたい。
②《教務・PTA係》 地域や保護者の学校への期待や要望をできる限り把握し、その内容を検討する。	・学年および学級PTAなどの意見を積極的に汲み上げるなど、要望等を把握し内容を検討の上、フィードバックできたか。 ・公開授業を通じて地域の意見を汲み上げることができたか。	13%	60%	16%	11%	公開授業においてアンケートの実施を行い、職員全体で共有することができた。今後も地域に期待していただけるような指導のあり方を追求したい。
③《学年・教務係》 様々な機会をとらえた情報発信により、保護者や中学生・地域との連携を深める。	・継続的に情報発信が行えたか。また、定期的にホームページを更新することができたか。 ・中学生や地域の方への情報提供も積極的に行うことができたか。	20%	60%	7%	13%	HPにおいて「松代通信」として学校行事等の様子を継続的に発信することができた。学年でも学年通信を定期的に発行している。学年PTAや保護者説明会、保護者懇談会などさまざまな機会を通じて、情報共有に努めることができた。
④《生徒会係・各職員》 生徒会や職員が、地域と積極的に関わる。	・通学路の清掃活動を充実させることができたか。 ・地域の活動に積極的に参加することができたか。 ・職員による街頭指導ができたか。	20%	58%	9%	13%	あんずの摘果作業や通学路清掃は計画通り実施できた。松代大橋の清掃や長野灯明祭にもボランティアで生徒と職員が参加し、地域と交流を深めた。真田十万石祭は中止になってしまったが、台風19号のボランティアには多くの生徒・職員が積極的に参加した。また、「松高カレー」の売り上げの一部を義援金として市の担当者に贈り、被災地支援も行うことができた。
⑤《PTA係》 総会・学年および学級PTAなどのあり方を工夫し、参加者の増加をめざす。	・しっかりアピールができたか。 ・参加率の増加が見られたか。 ・保護者・職員の協力が得られたか。	16%	58%	11%	16%	学年PTAでは進路講話も行き、保護者の興味関心を高められるような工夫をすることができた。役員の方も非常に積極的に取り組んでくださっている。来年度はさらに魅力ある活動ができるよう工夫し、参加者を増やしていきたい。
⑥《ビジョン委員会》 保護者・地域に愛され、信頼される学校づくりに向け、本校ではどのような生徒を育てたいかを検討する。	・校内研修等をとおしてどのような生徒を育てたいか、職員間で共通認識を持つことができたか。	13%	69%	7%	11%	校内研修から本校の3つの方針の策定ができたが、細部について職員間の共通認識を深めながら、方針に即した新教育課程表の作成と授業編成に取り組んでいく。今後の松代高校の役割について随時検討していきたい。